



名刺交換して反応を観察してきました！



もう5月ですね。すぐに猛暑になりそうな勢いです。ゴールデンウィークを楽しんでいる方が多いと思いますが、カレンダー通りに仕事をされている方々は少し息抜きしていただき、お茶でも飲みながら読んでみてください！

先月のニュースレターの中で、二つ折り名刺の写真がチラッと出ておりました。二つ折りになったことで情報の掲載量が2倍になります。情報量は増えましたが名刺を見た方が、どの部分に興味を持つのか。正直なところ予測できません。ということで、異業種交流会、知人・友人の会社、シンポジウム後の懇親会、IT関連の展示会等、いろいろなところに出向いて名刺交換し、反応を観察してきました！

観察した結果、多くの発見がありました。ビジネスの内容について質問があったり、同じ大学出身であることに親しみを持ってもらったり、この辺りは正攻法ですね。面白いのは、裏面に記載している神社参拝や深夜アニメというキーワードを見た方と話が弾み、意気投合することができたことです(笑)。

名刺の中身に興味を持ったあなたへ。是非交換しましょう。郵送することもできますが、できれば対面が良いですね。お互いに新しい発見があるかもしれませんから…。

「書く力」を読みました！



今回、ご紹介する本は「書く力 (朝日新聞出版、¥778、池上彰 竹内政明著)」です。池上さんはテレビでお馴染み(僕は池上さんの番組を見ませんが)なので、皆さんご存知だと思います。竹内さんは読売新聞のコラム「編集手帳」を書いている方です。僕は毎朝、このコラムを読んでいますので、紙上の竹内さんを知っています。プロの物書きとしての矜持、思考、お互いの技術・ノウハウを公開しているユニークな本です。

全体で200ページですが、参考になる部分がたくさんあります。僕は線を引きましたね(笑)。引いた部分を全てご紹介するのは厳しいですが、僕自身の体験も交えて、ひとつご紹介します。以下の対話部分(P156)です。

竹内 「声に出して読む」ことはしないまでも、口の中でつぶやいてみる。「音読する」ことでリズムを身体に刻みつける。文章上達の秘訣だと思います。

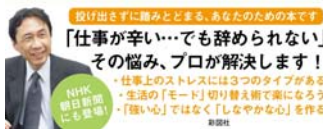
池上 実は私の『伝える力』(PHPビジネス新書)は、書いた後、最初から最後まで音読したのです。丸二日かかりましたが、読む途中でひっかかるところが出てくる。そこがダメな文章であることがわかるのです。

リハビリをやっていた 2008 年頃、本や新聞記事の音読を毎日 2~3 時間やっていました。日課としてやっていると、**有名著者の本でも、音読すると読みにくい部分がたくさんある**ことに気がきます。それは新聞記事でも同じ。例えば「ないということもない」というような二重否定の文章は読みにくく、意味も分かりにくい。読みにくいと判断した本は、容赦なくブックオフに売り飛ばしました(笑)。ちなみに池上さんは、69 ページで読みにくい文章について、次のようにコメントしています。

池上 「読んでも意味がわからない」のは、書いてある単語を知らなかったり、読解力がなかったりして、読者が悪いということよりも、そもそも文章が整理されていないからなんです。だから、こういう本を書いてしまうのは、その**専門家が自分の研究分野について、実はまだしっかりと理解ができていない**んだろうと、私は考えています。

ホンマにその通りです。中途半端な専門家は、本質から逃げるように論旨展開していきますからね~(笑)。ということで、**皆さんも書類やメールの文章を作った後、音読してみてください。**ひっかかる箇所があれば、その部分を修正すると、スポーツドリンクを飲むような感じで、ひっかからない文章になりますよ！

「つぶれない働き方の教科書」も読みました！



もう一冊、ご紹介します。「**産業カウンセラーが教える『つぶれない働き方』の教科書** (彩図社、¥1,296、吉岡俊介著)」です。企業規模を問わず(今年の電通事件が典型例ですが)、働き方に関する様々な問題が明るみになってきています。責任感の強い方や真面目な方は全部背負いこんでしまい、最後はつぶれてしまう。最悪は自殺してしまう。そんな出来事が当たり前になっています。

吉岡さんが実施した膨大なカウンセリング結果の中から、つぶれてしまった人の共通点を挙げています。それは「**生活のモードの切り替えがうまくできていない**」ということです。私たちの生活環境には、上下のタテ型、水平のヨコ型が存在しています。タテ型を「**タテ・モード**」、ヨコ型を「**ヨコ・モード**」と名付けますと…。

タテ・モードは、指示命令系統で構成される会社や団体などの仕事で使われています。個人の本音ではなく、企業や組織の建前が優先されます。そして、タテ・モードの豊かさの基準は「損得勘定」です。これに対してヨコ・モードは、水平的な寄り添いの状態で、ストレスを感じないリラックスした関係です。自尊感情や自己肯定感が高く、本音ベースで喜怒哀楽の感情を表現できます。ヨコ・モードの豊かさの基準は「人と人とのつながりの強度」です。P40 に掲載している「モード表」は、吉岡さんが実際にカウンセリングで使っていて、タテとヨコの対比が分かりやすく示しています。

居心地が良いのはヨコ・モードですが、ビジネスの中ではタテ・モードも必要。**2 つのモードの良し悪しではなく、仕事やプライベートにおいて、モードの切り替えができることが重要です。**切り替えできないと、結果的につぶれてしまいます。本の中ではモードを切り替える方法を分かりやすく説明していますので、興味のある方は、購読をお勧めします。相談したい方は「オフィスよしおか」で検索してみてください。

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター編集部

発行人 奥村政治

〒540-0034 大阪市中央区島町 2 丁目 2 番 3 号 サハム天満橋 402

発行日 2017 年 5 月 1 日

TEL06-6920-3191 Email: m-okumura@1project-support.com <http://www.1project-support.com>

FAX06-6920-3192 Copyright 2017 オクムラ経営コンサルティングオフィス all rights reserved